



あのときの常呂・写真館

VOL 84

(1974年)

昭和49年9月20日 常呂高校第1回援農遠足

▶常呂高校の援農遠足は昭和49年に始まり、58年まで続き、翌59年からは今も続いている「クリーンアップ・ワッカ」に代わります。

*援農遠足のきっかけは、マンネリ化した遠足を何か意味あることにするために「農作業を通して、奉仕の精神を培おう」と生徒会が自主的に始めたものでした。



*昭和51年10月号の「広報ところ」では、常呂高校の全校生徒(260人)が、共立・豊川地区6戸の農家まで遠足。ジャガイモの収穫作業を行ったことを紹介しています。

*トラクターがイモを掘り起こしていく後を追って、コンテナにイモを集め、イモの山を築いていくという昔懐かしい農作業。

昭和56年には、第8回目となる援農遠足が、広報10月号の表紙を飾る写真に使われています。この時の生徒数は244人、共立・豊川・富丘・福山6戸の農家でイモ拾いをし、「若い人たちに手で拾ってもらえると、イモも傷まず大いに助かります」という受け入れ農家の感謝の言葉を載せています。

*左：昭和51年9月24日の援農遠足

*下3枚は、昭和51年9月24日の援農遠足



*下3枚は、昭和56年9月18日の援農遠足



下：昭和56年「広報ところ」10月号の表紙

